

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童サポートチーム あおぞらの木			
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 3日		～	令和 7年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 3日		～	令和 7年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 5月 1日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童のニーズの合わせた療育プログラム（日々の活動内容）を作成・実践している。	児童一人ひとり面談を行いながら、目標を立てて活動を行っている。また、活動実践後に振り返りも行っている。	目標達成に向けて、児童の思いに耳を傾けながら気持ちを汲み取り、療育プログラム（日々の活動内容）の検討を行っている。
2	事業所周辺に広場や公園等が充実している。	地域資源を上手く活用して、身体を思いっきり動かしている。地域の高齢者（広場を利用している自治会の方達）や地域の子ども、他事業所と積極的に交流を行っている。	今後も地域資源を活用した活動や交流などを計画していく。
3	職員間の連携をしっかりと取っている。	毎日のミーティングを通して、児童の様子を細かく共有し、共通理解のもと、児童支援を行っている。送迎時なども困った事があれば、こまめに連絡を取り合って連携している。	日々のミーティングは勿論の事、児童の特性に合わせた支援を行うために、事業所内外の研修も積極的に行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者同士の交流の場が少ない。	外出（交流）を好まない保護者や就労状況で都合がつかない保護者などおり、交流の機会が少ない。	余裕を持ってスケジュールを組み、できるだけ多くの保護者が参加できる保護者会の設定を行う。保護者会の取り組みの目的を明確にする事で、保護者が参加しやすい環境を整える。
2	ここ数年、継続利用の児童で空きがなく、新規利用児の受け入れが難しい。	部活動や児童館・地域の習い事等との連携が上手く取れず、児童自身のイメージが膨らんでいない。	児童の得意・挑戦したい事を共に見つけて、移行支援に力を入れていく。
3			